

令和 5（2023）年度

科目別学習の手引き (シラバス)

3 学 年

長野県松本美須々ヶ丘高等学校

令和5年(2023)年度 科目別学習の手引き 3学年

1. はじめに

この冊子は、本校の各科目の学習内容を説明することによって、生徒自身が年間の学習計画をたて、将来の目標実現や進路学習に役立ててもらおう、という願いを込めて作成しました。各科目の学習方法なども記載されていますので、自らの学習内容を事前に知り、学習に役立ててください。

2. 学習について

貝原益軒は「人生まれて学ばざれば生まれざると同じ」と書いており、人間だけが学ぶ能力があると述べています。人間が幅広く学習することで、自分を内面的に豊かにたくましくしてくれることは、間違いのないことです。学習は見識を深め、思考力を高め、より人間らしく、論理的、主体的に社会で生きていくためにするのです。学校での教科学習においては、好き嫌い、得意不得意、社会で使える使えない、ということがよく話題になりますが、それぞれのステージでの学習の意味は、そこにとどまるものではありません。

2年間の学習活動に、皆さんはそれぞれどのように取り組んできたでしょうか。入学時に抱いていた将来の夢を実現するために、努力を積み上げてきた人もいるでしょう。一方で、易きに流れ、スマホ・ゲームに依存した2年間を送ってしまった人もいるでしょう。3年生になり、就職であろうと大学進学であろうと受験には「学力」が必要です。皆さんは将来の夢を模索しながら、惜しみなく努力すべき時期にあります。自身の夢は、自分自身でしか掴むことができません。高校生活はそのためにあるといっても過言ではありません。この1年間本気で取り組めば、やっただけ加速度的に…と期待するのは的外れでしょうか。

さて、いよいよ、就職・進学の進路実現に向けて集中して学習する時がきました。特に大学入試改革に伴い新しい日程・制度に対応して行くためには情報収集を学校任せにするのではなく個人でも積極的に動いていく必要があります。自己実現のために最終学年は精一杯の努力をして欲しいと思います。

3. 単位認定について

- 1) 授業の遅刻と早退は2回で1回の欠課にカウントされます。
- 2) 単位不認定の科目があると、進級・卒業はできず、原級留置となります。
- 3) 定期テストを受験し、各教科の基準点を満たさないと、原則として単位は認定されません。詳細については、各教科担任に聞いてください。

4. 定期テストについて

- 1) 定期テストの追試は正当な理由がある場合を除き、原則として行いません。正当な理由がある場合は、必ず担任に申し出て指示を仰いでください。
- 2) 定期テスト1週間前からは、クラブ活動禁止期間です。下校時刻までに必ず下校し、学習に専念してください。重要な大会の直前などの場合は、顧問を通じて職員会の指示に従ってください。

5. その他

- 1) 遅刻、欠席する場合は、原則として保護者から必ず学校に連絡してください。
- 2) 以上のことは、保護者の方にも必ず確認しておいてください。

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	国語表現	単位数	2
担当者	3 学年 担当者				
達成目標	自分の意見を持ち、他者に伝えるための話す・書くの言語活動を行う、それを効果的にする技術の習得を目指す。				
教 材	教科書『国語表現 改訂版』（大修館書店） その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	自らの考えを話す・書くことで表現し、他者に効果的に伝えることができたか。	テーマに沿って自ら考え、情報を収集し、適切に表現することができたか。		自ら積極的に授業・活動に取り組む態度が見られたか。	
主な評価方法	・ 提出物や発表 ・ 定期考査 ・	・ 授業での取り組み ・ 意見発表（文、口頭） ・ 提出物の内容		・ 課題への取り組み姿勢 ・ 他者への積極的な自己開示	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	自己表現能力を磨くために、自分の高校生活などを振り返る。また他者の書いた文章から表現のあり方を研究する。	中間考査		10 時間	
	自分という存在を他者に伝えるための効果的な表現方法を探る。	期末考査		10 時間	
2 学期	筆者のものの見方、考え方を的確に読み取る力をつける。	中間考査		15 時間	
	筆者のものの見方、考え方を的確に読み取ったものを、自分なりに考え、意見としてまとめる力をつける。	期末考査		15 時間	
3 学期		中間考査		時間	
	テーマを決め、探究的活動を行う。文字以外での表現方法の効果も探る。	期末考査		20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ ワークや話し合いには積極的・主体的に参加し、自分の意見を述べる姿勢を持つこと。 ・ 課題文など単元毎の提出物を遅延なく提出すること。					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	現代文 B	単位数	2
担当者	掛川 細田 ほか				
達成目標	読むことに必要な語彙力の養成を柱とする。明治以降の現代までに書かれた文章を対象に、読むこと・話すことを軸に、主体的な学びの姿勢を醸成する。				
教 材	教科書『精選現代文 B』新訂版（三省堂） その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	評論・小説と言った多様な文章に触れることで、必要な語彙力・知識を身につけることが	読む・書くといった活動を通して、自ら思考や判断をし、それを適切に表現することが	自ら積極的に授業活動に取むとともに、協働により新たな視点を得ようとする態度が見られたか		
主な評価方法	・ペーパーテスト ・プリント ・ノート ・提出物	・ペーパーテスト ・学習状況の観察 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表など	・授業中の発言や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期・	「『ブーボー』と『マンマ』の記号論」 「靴」		中間考査	10 時間	
	「靴」 「身体〈の〉疎外」		期末考査	10 時間	
2 学期	「判断停止の快感」 「南の貧困／北の貧困」		中間考査	15 時間	
	「虚ろなまなざし」 「飛行機で眠るのは難しい」		期末考査	15 時間	
3 学期			中間考査	時間	
	「飛行機で眠るのは難しい」 「忘れられる権利」 「無常ということ」		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ 毎時行う語彙ドリルの予習復習によって、語彙力をつける。 ・ 授業内容をふまえ、自分なりに整理しながらノート作りをする。 ・ 話し合い等の活動に積極的に取り組み、他者の意見から新たな視点を得ること。 ・ 話す、書くの表現作業は、他者に伝えるための工夫や努力をすること。 ・ 新聞など自分を取り巻く社会にも目を向け、社会の中の自分を考える。					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	古典 B	単位数	2
担当者	掛川 細田 ほか				
達成目標	古典の世界を通じて、現代にも通じる人間の姿・自分を取り巻く文化の流れを知り、自分自身を見つめる力を養う。そのための語彙力、文法の知識を身につける。				
教 材	教科書『精選古典 B 新版』（東京書籍）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	古典を読むことに必要な語彙力・知識を身につけることができたか	古典の世界のことを自分のことと照らし合わせて思考し、そこで感じたことを表現することができ		自ら積極的に授業・活動に取り組むとともに、協働によって新たな視点を獲得の態度が見られたか	
主な評価方法	・ペーパーテスト ・プリント ・ノート ・提出物	・ペーパーテスト ・学習状況の観察 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表など		・授業中の発言や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「成方といふ笛吹」（十訓抄） 「赤壁之戦」（十八史略）		中間考査	10 時間	
	「女郎花」（紫式部日記） 「桃花源記」（陶潜）		期末考査	10 時間	
2 学期	「このついで」（堤中納言物語） 「母之愛子也」（韓非子） 「侵官之害」（韓非子）		中間考査	15 時間	
	「風姿花伝」（世阿弥） 「やまと歌は」（古今和歌集仮名序） 「六歌仙」（古今和歌集仮名序）		期末考査	15 時間	
3 学期	「若紫」（源氏物語） 「車争い」（源氏物語）		中間考査	時間	
	「長恨歌」（白居易）		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・各自授業用ノートを作成し、基本的文法事項は予習して授業に臨むこと。 ・授業はノートに学習の要点を記入し、復習に十分活用させること。 ・課題・提出物は期限内に必ず提出すること。 ・話し合いや群読などの活動には積極的・主体的に参加する姿勢を持つこと。					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	現代文特論	単位数	2
担当者					
達成目標	(1)多くの教材を読むことで、さまざまな思考や人間の心情に触れ、主体的かつ探究的に物事を考える態度を育てる。(2)文章を正確に読み取り理解したことを表現する力を養い、大学受験を希望する生徒に学力を定着させる。				
教 材	アップリフト現代文入試標準 (Z会) 大学入学共通テスト準備演習 論理・文学編 (数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	語彙・表現・構成など基本的なスキルを身につけるとともに、それを使用し、読解する力がついたか。	文章を正しく読み取る力を身につけるとともに、論点を明確にしつつ自らの言葉で表現するスキルが身についたか。		課題に対して自分なりの考えを記述し、解答と照らし合わせて、よりよい答えへと修正する姿勢が身についたか。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ ドリルへの取り組み ・	・ 定期考査 ・ 記述問題への取り組み ・		・ 問題への取り組み ・ 話し合いへの取り組み ・	
進行計画 (学習の内容)				配当時間	
1 学期	短い文章の問題演習・記述中心 (評論・小説)		中間考査	10 時間	
	短い文章の問題演習・記述中心 (評論・小説)		期末考査	10 時間	
2 学期	短い文章の問題演習・記述中心 (評論・小説)		中間考査	15 時間	
	大学入学共通テスト対策・マーク中心		期末考査	15 時間	
3 学期	大学入学共通テスト対策・マーク中心		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ 各学期毎に 2 回の定期テストを実施 ・ 講座別学習 ・ 持ち物：問題集・辞書・ノートなど					

教 科	国語				
学 年	3 学年	科 目	古典特論	単位数	3
担当者	3 学年担当 国語科教諭				
達成目標	(1)多くの古典作品を読むことで、古典の知識・文法事項のより一層の定着を図る。(2)入試問題に取り組み、初見の文章を正確に読み解く受験学力の向上を目指す。				
教 材	アップリフト古文入試標準/基礎が身につく漢文 (Z会) 大学入学共通テスト準備演習 古文・漢文編 (数研出版) 大学入試共通テスト実践演習 古文・漢文編 (数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	単語、文法、語法などの基本的な知識を身につけたか。	古典作品を理解する上での背景知識をふまえ、作品に描かれる世界を読み取ることができたか。		さまざま古典作品に触れ、異文化を楽しむ姿勢とともに、主体的に問題に取り組むことができたか。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 文法等ドリル ・	・ 定期考査 ・ ・		・ 問題への取り組み ・ 話し合いへの取り組み ・	
進行計画 (学習の内容)				配当時間	
1 学期	古文文法・漢文句法の復習 基本の記述問題演習		中間考査	15 時間	
	古文文法・漢文句法の復習 基本の記述問題演習		期末考査	15 時間	
2 学期	古文文法・漢文句法の復習 基本の記述問題演習		中間考査	23 時間	
	大学共通テスト対策・マーク対策		期末考査	22 時間	
3 学期	大学共通テスト対策・マーク対策		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・ 講座別学習 ・ 各学期毎に 2 回の定期テスト ・ 持ち物：問題集、文法のテキスト、辞書、ノートなど					

教 科	地理歴史				
学 年	3 学年	科 目	世界史特論	単位数	4
担当者	地歴科教諭				
達成目標	近代の始まりから現代までの世界史を学習し、各国各地域の文化や対立を学び、現代の諸課題につながっていることを理解する。				
教 材	教科書「詳説世界史B」（山川出版社） アカデミア世界史(浜島書店) 問題集「ゼミナール世界史」（浜島書店）				
評価方法	《知識・技能》 近代における農耕民と遊牧民の交流と対立や文化の違いとそれぞれの歴史上の出来事について史料を適確に読み取り、科学的に理解している。 （評価の方法：ペーパーテスト等） 《思考・判断・表現》 歴史上の出来事について遊牧民の視点と農耕民の視点から科学的に理解している。歴史上の出来事の因果関係や相関関係について論理的に説明することができる。（評価の方法：ペーパーテストの論述問題、授業内での発問に対する解答、グループ討議および発表等） 《主体的に学習に取り組む態度》 授業内で個人またはグループに対して課せられる課題に対して、史料を活用したり他者と意見交流をしたりしながら主体的に解決策を模索することができる。（評価の方法：授業内での発問やレポート課題、グループ討議および発表等）				
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	アジア諸地域の繁栄～近世ヨーロッパ世界の展開			40 時間	
2 学期	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立～アジア諸地域の動揺			60 時間	
3 学期	帝国主義とアジアの民族運動～冷戦と第3世界の独立			40 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
1 年時に履修した内容に継続して学習を進める。基礎力、応用力をしっかりと身につけるため、教科書のみならず史料に触れながら学習を進める。ただ単純に「事件・事実」を覚えるのみではなく、“なぜこうなったのか”などの「解釈」を加え、さらにそこに各自の「考え・考察」をプラスし、未来を見つめる「歴史を見る眼」を養いたい。					

教 科	地理歴史				
学 年	3 学年	科 目	日本史特論	単位数	4
担当者	3 学年担当 地歴科教諭				
達成目標	近世から現代までの通史を学習し、近代日本の成り立ちや現代の諸課題について理解する。				
教 材	教科書「詳説日本史B」（山川出版社） 歴史資料「図説日本史通覧」（帝国書院）・問題集「4ステージ演習ノート日本史B」（数研出版）・史料集「日本史重要史料集」（浜島書店）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	近世～現代までの歴史上の出来事について資料を的確に読み取り、科学的に理解している。	近世～現代までの出来事について科学的に理解した内容をもとに、出来事の因果関係や相関関係について論理的に説明することができる。		授業内で課せられる課題に対して、資料を活用したり他者と意見交換をしたりしながら、主体的に問題を掘り下げ、理解を深めることができる。	
主な評価方法	・ 定期考査等。	・ 定期考査の考察問題。 ・ 授業内での発問に対する応答。 ・ グループ討論および発表等。		・ 授業内での発問に対する応答。 ・ グループ討論と発表など。 ・ 定期考査の応用問題・記述問題。	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	江戸時代		中間考査	20 時間	
	近代国家の成立		期末考査	20 時間	
2 学期	第1次大戦～大正デモクラシー		中間考査	30 時間	
	恐慌の時代～第二次世界大戦		期末考査	30 時間	
3 学期	占領下の日本～55年体制		中間考査	20 時間	
	高度成長～冷戦の終結、平成史		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
2 年次に履修した内容に継続して学習を進める。基礎力応用力をしっかりと身につけるため、教科書のみならず資料にふれながら学習を進める。ただ単純に覚えるのではなく、「なぜこうなったのか?」「時代の特徴は何か?」を考えながら歴史を理解することを主眼とします。					

教 科	地理歴史				
学 年	3 学年	科 目	地理特論	単位数	4
担当者	地歴公民科 教諭				
達成目標	2 学年で身につけた基礎的な知識や技能を生かし、系統地理分野の学習を進め、地理の基礎基本を習得する。さらに地域的な枠組みから世界を探究する地誌的分野に入り、世界の多様性に気づき、現代世界の諸課題の現状を理解し、地理的な見方・考え方を通して課題解決のために私たちができることは何かを考える。				
教 材	教科書「新詳地理B」（帝国書院） 地図帳「新詳高等地図」（帝国書院） 資料集「新編地理資料2022」（とうほう） 問題集「ニューコンパスノート地理2022」（とうほう）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	世界や日本各地の地域の特色、課題を理解し、基本的な地名・地域名・用語等を身につけている。資料集や教科書、新聞等を見ながら資料やグラフ・統計・地図を読み取り、整理し、まとめることができる。	自分の考えをまとめ、表現・発表することができる。また他者の発表をもとに、自分の考えをさらに深めることができる。		普段から積極的に新聞やニュース番組に触れ、地域や日本、世界の状況に関心を持っている。授業内容を踏まえ自分の意見をまとめ、授業に積極的に参加できる。	
主な評価方法	・定期考査など ・ ・	・定期考査の論述問題 ・プレゼンテーション発表 ・授業内での発問に対する回答等		・授業中の学習への取り組み ・課題やレポートの取り組み ・グループ討議	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	工業、商業・観光		中間考査	20 時間	
	交通、貿易		期末考査	20 時間	
2 学期	人口、村落・都市、居住問題		中間考査	30 時間	
	生活文化、民族・宗教、領土問題		期末考査	30 時間	
3 学期	地誌、演習問題（入試対応）		学年末考査	40時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
1 教材や新聞等を活用し、現代世界の状況や課題を考えながら各分野の学習を深める。学習内容は資料集やプリント等を活用してノートに整理し、単元ごとに問題集で確認する。 2 映像資料や音声資料を利用し理解を深める。 3 定期考査のほか、プレゼン発表、レポート作成等を実施する場合もある。 4 授業用プリントや定期考査などは、ファイルに整理保存すること。					

教 科	地理歴史				
学 年	3 学年	科 目	地理特論	単位数	3
担当者	地歴公民科 教諭				
達成目標	2 学年で身につけた基礎的な知識や技能を生かし、系統地理分野の学習を進め、地理の基礎基本を習得する。さらに地域的な枠組みから世界を探究する地誌的分野に入り、世界の多様性に気づき、現代世界の諸課題の現状を理解し、地理的な見方・考え方を通して課題解決のために私たちができることは何かを考える。				
教 材	教科書「新詳地理B」（帝国書院） 地図帳「新詳高等地図」（帝国書院） 資料集「新編地理資料2022」（とうほう） 問題集「ニューコンパスノート地理2022」（とうほう）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	世界や日本各地の地域の特色、課題を理解し、基本的な地名・地域名・用語等を身につけている。資料集や教科書、新聞等を見ながら資料やグラフ・統計・地図を読み取り、整理し、まとめることができる。	自分の考えをまとめ、表現・発表することができる。また他者の発表をもとに、自分の考えをさらに深めることができる。	普段から積極的に新聞やニュース番組に触れ、地域や日本、世界の状況に関心を持っている。授業内容を踏まえ自分の意見をまとめ、授業に積極的に参加できる。		
主な評価方法	・ 定期考査など ・ ・	・ 定期考査の論述問題 ・ プレゼンテーション発表 ・ 授業内での発問に対する回答等	・ 授業中の学習への取り組み ・ 課題やレポートの取り組み ・ グループ討議		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	工業、商業・観光		中間考査	15 時間	
	交通、貿易		期末考査	15 時間	
2 学期	人口、村落・都市、居住問題		中間考査	23 時間	
	生活文化、民族・宗教、領土問題		期末考査	22 時間	
3 学期	地誌、演習問題（入試対応）		学年末考査	30時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
1 教材や新聞等を活用し、現代世界の状況や課題を考えながら各分野の学習を深める。学習内容は資料集やプリント等を活用してノートに整理し、単元ごとに問題集で確認する。 2 映像資料や音声資料を利用し理解を深める。 3 定期考査のほか、課題の提出やレポートの作成を実施する場合もある。 4 授業用プリントや定期考査などは、ファイルに整理保存すること。					

教 科	公民				
学 年	学年	科 目	倫理	単位数	2
担当者	学年担当 科教論 郷原				
達成目標	先人達の思想や行動を学びながら、自ら思考する主体的自我の確立を目指す。また、現代の倫理的課題について考える。				
教 材	教科書『高等学校改定版 倫理』（第一学習社） 資料集『アプローチ倫理資料PLUS』（とうほう）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	知識・理解 倫理の用語、知識を身につけたか。資料を読み取ることができるか。	倫理的問題に対して、自らの発想で問題解決の方法を探ることができるか。また、それを言語によって表現で		倫理的問題に対して、自ら問題を深め、研究することができるか。	
主な評価方法	・ 定期テスト	・ 記述式解答 ・ 研究発表		・ 活動の様子 ・ 振り返り	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ギリシアの思想		中間考査	10 時間	
	キリスト教		期末考査	10 時間	
2 学期	ルネサンス～近代思想		中間考査	15 時間	
	カント、ヘーゲル、功利主義		期末考査	15 時間	
3 学期	現代思想		中間考査	10 時間	
	現代の諸課題と倫理		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
定期テストで試される知識を身につけることはもちろんだが、加えて、さまざまな倫理的課題に対して興味を持ち、それを表現する力が求められる。日々の、記述式課題には積極的に取り組んでもらいたい。					

教 科	公民				
学 年	3 学年	科 目	政治経済	単位数	3
担当者	郷原・加藤				
達成目標	2年次の現代社会での学習を基礎として、経済分野を中心に基礎知識を学ぶとともに受験にも対応できる力を身につける				
教 材	政治・経済」（東京書籍） 「最新図説政経」（浜島書店） 「4ステージ演習ノート」（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	政治・経済の用語、知識を身につけ、説明することができる。	社会問題に対して、自らの発想で問題解決の方法を探り、それを表現することができる。		社会問題等に対して、自ら疑問を持つことができる。	
主な評価方法	・ペーパーテスト ・ ・	・ペーパーテスト ・レポート ・		・振り返りシート ・レポート ・	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	現代の資本主義経済		中間考査	15 時間	
	現代経済のしくみ		期末考査	15 時間	
2 学期	日本経済の発展と産業構造の変化		中間考査	23 時間	
	国民経済と国際経済		期末考査	22 時間	
3 学期	国民経済と国際経済		中間考査	15 時間	
	福祉社会と日本経済の課題		期末考査	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
授業に集中しノートを充実させる。単なる板書のコピーに終わらず、自分だけのメモを加えていくとよい。新聞を読み、ニュースを見る習慣をつけると、単なる用語の暗記ではなく、現代社会や世界に関する認識がより生活実感を伴った認識となる。					

5	教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	6
	学年	3				
	担当者	穂高				
	教材	教科書：高等学校 数学Ⅲ（数研出版） 問題集：REPEAT数学Ⅲ完成ノート（数研出版）参考書：チャート式解法と演習数学Ⅲ（数研出版）				
	目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
	評価の観点	知識・技能 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	思考力・判断力・表現力 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		
	評価方法	・定期考査 ・確認テスト ・小テスト	・定期考査 ・提出レポートの内容 ・問題演習 ・提出ノートの内容	・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等		
	進行計画（学習の内容）				配当時間	
	1学期	複素数平面	複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形 研究 3点A(α), B(β), C(γ)を頂点とする△ABC	30 時間	
		式と曲線	2次曲線	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 研究 直角双曲線 $xy=1$ 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 研究 2次曲線の接線の方程式 6 2次曲線の性質 7 曲線の媒介変数表示 研究 いろいろな曲線の媒介変数表示 研究 分式式による円の媒介変数表示 8 極座標と極方程式 研究 2次曲線を表す極方程式 9 コンピュータの利用	1学期中間考査	
			媒介変数表示と極座標			
			関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数 コラム $y=x^3$ の逆関数	30 時間	
			極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 コラム $\sum 1/n!$ は発散する？	1学期期末考査	
			関数の極限	4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性		
			導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 3 いろいろな関数の導関数 研究 指数関数 $y=a^x$ のグラフとeの関係	30 時間	
			いろいろな関数の導関数	4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数 1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式 コラム e^x を表す式	2学期中間考査	
		2学期	微分法の応用	1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 研究 定積分 $\int_0^{\pi} e^x \sin x dx$ ($0 \leq x \leq 2\pi$) 6 定積分のいろいろな問題 7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ 発展 微分方程式	42 時間	
			不定積分			
			定積分		2学期期末考査	
			積分法とその応用			
			積分法の応用		60 時間	
	3学期	問題演習			学年末考査	
	学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
	① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。 ② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。 ③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習においての「復習」は不可欠。 ④ 演習の時間を確保するために授業の進捗等が変更になる場合がある。 ⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。 ⑥ 確認テストや単元テストを定期的に実施する。					

教 科	数 学				
学 年	3 学年	科 目	数学特論 A	単位数	3
担当者	3 学年担当 数学科教諭				
達成目標	数学Ⅰ・Aの基本的な内容の定着に努めながら、発展的な問題でその知識を用いて解決できるような力を身に付ける。				
教 材	35日完成！ 大学入学共通テスト対策 数学ⅠA(数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察したり判断したりする力を養		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン ・ グループでの話し合い		・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	・ 「数と式・集合と論証」の復習と問題演習 ・ 「2次関数」の復習と問題演習		中間考査	15 時間	
	・ 「2次関数」の復習と問題演習 ・ 「図形と計量」の復習と問題演習		期末考査	15 時間	
2 学期	・ 「データの分析」の復習と問題演習 ・ 「場合の数と確率」の復習と問題演習		中間考査	23 時間	
	・ 「図形の性質」の復習と問題演習 ・ 「整数の性質」の復習と問題演習		期末考査	22 時間	
3 学期	・ 数学ⅠAの総合問題の演習		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う場合がある。 ②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。 ③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数 学				
学 年	3 学年	科 目	数学特論 B	単位数	2
担当者	3 学年担当 数学科教諭				
達成目標	数学Ⅱ・Bの基本的な内容の定着に努めながら、発展的な問題でその知識を用いて解決できるような力を身に付ける。				
教 材	3 5 日完成！ 大学入学共通テスト対策 数学Ⅱ B（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な 評価方法	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン ・ グループでの話し合い		・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	・ 「方程式・式と証明」の復習と問題演習 ・ 「図形と方程式」の復習と問題演習		中間考査	10 時間	
	・ 「図形と方程式」の復習と問題演習 ・ 「三角関数」の復習と問題演習		期末考査	10 時間	
2 学期	・ 「指数関数・対数関数」の復習と問題演習 ・ 「微分法と積分法」の復習と問題演習 ・ 「数列」の復習と問題演習		中間考査	15 時間	
	・ 「微分法と積分法」の復習と問題演習 ・ 「数列」の復習と問題演習 ・ 「ベクトル」の復習と問題演習		期末考査	15 時間	
3 学期	・ 数学Ⅱ B の総合問題の演習		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う場合がある。					
②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。					
③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数 学				
学 年	3 学年	科 目	応用数学特論	単位数	2
担当者	3 学年担当 数学科教諭				
達成目標	数学Ⅰ・Aおよび数学Ⅱ・Bの基本的な内容の定着に努めながら、数学全般の知識を用いて問題解決ができるような力を身に付ける。				
教 材	ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な 評価方法	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン ・ グループでの話し合い		・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	数学ⅠAを中心とした学習内容の復習と問題演習	中間考査		10 時間	
	数学ⅠAを中心とした学習内容の復習と問題演習	期末考査		10 時間	
2 学期	数学ⅡBを中心とした学習内容の復習と問題演習	中間考査		15 時間	
	数学ⅡBを中心とした学習内容の復習と問題演習	期末考査		15 時間	
3 学期	数学ⅠAⅡBの総合問題演習	期末考査		20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う場合がある。					
②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。					
③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	数 学				
学 年	3 学年	科 目	基礎数学特論	単位数	2
担当者	3 学年担当 数学科教諭				
達成目標	数学Ⅰ・Aの基本的な問題が公式や定理を用いて解決できるような力を身に付ける。				
教 材	プレウィナー 基本の確認と演習 数学Ⅰ・A（文英堂）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン	・ 定期考査 ・ 解法のプレゼン ・ グループでの話し合い		・ 演習時の取り組み ・ 演習の記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	・ 数学Ⅰを中心とした学習内容の復習	中間考査		10 時間	
	・ 数学Ⅰを中心とした学習内容の復習	期末考査		10 時間	
2 学期	・ 数学Ⅰを中心とした学習内容の復習	中間考査		15 時間	
	・ 数学Aを中心とした学習内容の復習	期末考査		15 時間	
3 学期	・ 数学ⅠAを統合した問題の演習	中間考査		20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
①基礎事項の理解や諸課題を解決する力が身についたかどうかを評価する。 定期考査以外に、確認テストや到達度テストなども行う場合がある。					
②演習が中心となるので問題演習に対する主体的・積極的な取り組みが重要となる。					
③課題の提出については、重要視されるので注意する。					

教 科	理科				
学 年	3学年	科 目	物理	単位数	4
担当者	正木				
達成目標	自然界における物理現象を記述する法則が数学的に表されることを学習する				
教 材	教科書：改訂 高等学校 物理（第一学習社） 問題集：四訂版 リードα物理基礎＋物理（数研出版）、ビーライン物理（第一学習社） その他：授業で配布するプリント				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	2年で身につけた物理に関する知識をもとに、物理現象、特に電磁気のような目に見えない現象を数学的に理解しようとしている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現しようとしている。		実験観察への積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。	
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート		考查、問題演習課題、実験レポート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	波動	中間考查		20 時間	
	コンデンサー	期末考查		20 時間	
2 学期	ローレンツ力・電磁誘導・交流	中間考查		30 時間	
	原子	期末考查		30 時間	
3 学期	問題演習	期末考查		40 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
物理では、物理現象を数学的に理解していくことになる。特に波動や電磁気のようにイメージするのが難しい分野では、授業の内容を何度も振り返り、問題集などを反復して取り組むことで、知識の定着や計算力の向上に努めて欲しい。また実験・実習には、疑問をもって積極的に参加して欲しい。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	化学	単位数	4
担当者	齋藤				
達成目標	物質やその変化に関する、体系化された理論や構造・性質などを学ぶ。				
教 材	教科書（化学 実教出版）・問題集（セミナー化学＋化学基礎 Let's try Note）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	化学平衡・無機化合物・有機化合物の考え方、構造、性質について、基本的な用語をはじめ、知識の習得と理論的な反応の理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に付けようとしている。	化学の実験観察や理論から複合的に思考し、問題解決や事象の判断による正確な文章あるいは口頭説明による表現力を培うとしている。	実験観察への積極的な取り組みや考察、疑問点の洗い出しなどの他に多くの問題に積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。		
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート	考查、問題演習課題、実験レポート		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	化学平衡/無機物質(非金属元素)	中間考查	20 時間		
	無機物質(金属元素)	期末考查	20 時間		
2 学期	有機化合物(脂肪族化合物)	中間考查	30 時間		
	有機化合物(芳香族化合物)/高分子化合物	期末考查	30 時間		
3 学期	高分子化合物/問題演習	期末考查	40 時間		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
化学の応用部分の学習と、化学、化学基礎の復習を行う。必ず専用のノート、ファイルを作り、解説と演習の区別をする。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	化学基礎特講	単位数	2
担当者	3 学年担当 理科教諭				
達成目標	化学基礎の内容を復習によりまとめ、問題演習を通して、大学入学共通テストで化学基礎を受験する者を対象に必要な実力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：新版化学基礎 改訂版（実教出版）※1年次使用したもの 問題集：チェック＆演習化学基礎（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な用語、法則を理解している。観察、実験の基本操作と科学的に探究する技能を身に付けようとしている。	自然界や産業界にある化学に関わる事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。		化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	
主な評価方法	・ 考査 ・ 実験および実験レポート ・ 課題	・ 考査 ・ 実験および実験レポート ・ 課題		・ 課題 ・ 実験および実験レポート ・ 提出物	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	復習および基礎問題演習		中間考査	10 時間	
	復習および基礎問題演習		期末考査	10 時間	
2 学期	応用問題演習		中間考査	15 時間	
	応用問題演習		期末考査	15 時間	
3 学期	大学入学共通テスト対策問題演習		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
化学を学ぶためには、先ず基礎知識が必要になる。用語の意味をよく理解し、それを使って化学の事物・現象を考えていくことになる。目的意識を持って観察、実験などを行い、問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	生物	単位数	4
担当者	兼山				
達成目標	生物基礎、2年次での学びふまえ、生物の内容を総合的に学習する。日々の学習や観察・実験を通して、進学や生活に役立つよう、科学的に物事をとらえ、分析、考察する力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：改訂版生物（数研出版）、問題集：リードα生物（数研出版）、スクエア最新図説生物neo（第一学習社）、配布するプリント等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・生物や生物現象について、基本的な用語をはじめ、概念や原理・法則を含めて理解を深めようとしている。 ・生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けようとしている。	・生物学的な事物・現象について論理的に考え、分析・考察をし、導き出した考えを的確に表現しようとしている。		・生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に探究しようと自ら積極的に取り組もうとしている。	
主な評価方法	・ 考査 ・ 観察レポート	・ 考査 ・ 課題		・ 提出物 ・ 課題	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	第4章：生殖と発生		中間考査	20 時間	
	第5章：動物の反応と行動		期末考査	20 時間	
2 学期	第6章：植物の環境応答		中間考査	24 時間	
	第7章：生物群集と生態系		期末考査	24 時間	
3 学期	第8章：生命の起源と進化 問題演習		期末考査	40 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
昨年度の「生物」同様、難易度は高いため授業の復習は必須である。授業プリント毎の小テストを利用し、必要最低限の知識を身につけてほしい。加えてリードαの問題は難問も多いが、問題解説動画の利用や対面での質問等をから、能動的に学んでほしい。 ※第2章の「代謝」については、3年次の夏期補習にて授業を実施する。 ※第9章の「生物の系統」については、2学期以降の放課後補習にて授業を実施する。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	生物基礎特講	単位数	2
担当者	3 学年担当 理科教諭				
達成目標	生物基礎の内容を復習によりまとめ、問題演習をとおして、共通テストで生物基礎を受験する者を対象に必要な力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：新編生物基礎（数研出版） 問題集：チェック＆演習生物基礎（数研出版） ※必要に応じて授業プリント等も利用する。				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な用語、法則を理解している。観察、実験の基本操作と科学的に探究する技能を身に付けようとしている。	生物に関わる事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	生物や生物現象に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。		
主な評価方法	・ 考查 ・ 課題	・ 考查 ・ 課題	・ 課題		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	生物基礎の第4, 5章の学習 （1 年次に未学習の範囲）		中間考查	10 時間	
	復習および基礎問題演習		期末考查	10 時間	
2 学期	復習および基礎問題演習		中間考查	12 時間	
	復習および基礎問題演習		期末考查	12 時間	
3 学期	共通テスト対策問題演習		期末考查	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
生物を学ぶためには、先ず基礎知識が必要である。キーワードをよく理解し、それを使って生命現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。					

教 科	理科				
学 年	3 学年	科 目	地学基礎特講	単位数	2
担当者	3 学年担当 理科教諭				
達成目標	地学基礎の内容を復習によりまとめ、問題演習を通して、共通テストで地学基礎を受験する者を対象に必要な実力を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：地学基礎（啓林館）、問題集：セミナー地学（第一学習社）、地学基礎の基本マスター（啓林館）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	基本的な用語、法則を理解している。観察実習の基本操作と科学的に探究する技能を身につけようとしている。	天文や地学に関わる事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。		天文および地学現象に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	
主な評価方法	・ 考查 ・ 観察レポート ・	・ 考查 ・ 課題 ・		・ 提出物 ・ 課題 ・	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	復習および基礎問題演習		中間考查	10 時間	
	復習および基礎問題演習		期末考查	10 時間	
2 学期	応用用問題		中間考查	15 時間	
	応用用問題		期末考查	15 時間	
3 学期	共通テスト対策問題演習		期末考查	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
地学を学ぶためには、先ず基礎知識が必要になる。用語の意味をよく理解し、それを使って地学現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。					

令和 5 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ① 様々な運動を経験し、各種目に対する技術及び理論を習得する。また、健康の増進と体力の向上を図る。【知識及び技能】
- ② 運動の楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。
【知識及び技能】
- ③ 他者と関わりながら体を動かすことに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ④ 主体的に参加・運営することで積極的に運動に関わる態度を学ぶ。
【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 運動に積極的に取り組むこと
- 他者との関わりを大切にし、お互いでアドバイスをするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
- 安全に配慮して活動に取り組むこと（装飾品等を身につけない）
- 実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
- 授業の服装については学校指定のジャージ、シューズの着用を原則とする
- 体育理論は教室での座学とし、知識理解度を評価するためのプリント提出を課す

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・各種目のルールを理解し、運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・自分及び仲間の安全に留意し実践できるか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を理解し、知識を身につけることができたか。 ・自己や他者の能力を知り、解決に向け工夫や声かけができていくか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で競技に取り組めたか。 ・積極的に準備や片付けを行い、自分及び仲間の安全に配慮できたか
主な評価方法	・タイム測定 ・実技テスト ・試合の様子	・練習の様子 ・実技テスト ・試合の様子 ・課題への取り組み	・授業へ取り組む姿勢 ・出欠席の状況 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	20 時間	男女共通：体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト 男子：ソフトボール／バレーボール 女子：テニス／バレーボール	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。
2 学期	24 時間	男女共通：水泳（選択） 陸上競技（選択） 体育理論 選択Ⅰ期・Ⅱ期 男子：サッカー／バレーボール 女子：ソフトボール／バレーボール バドミントン／テニス	【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b) ・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)
3 学期	20 時間	男女共通：陸上競技 選択Ⅰ期・Ⅱ期 男子：サッカー／バレーボール 女子：ソフトボール／バレーボール	

令和 5 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	発展体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ① 体育・健康系大学への進学や、社会体育でのスポーツ指導員を目指す者が様々なスポーツを経験し、より高度な技術及び理論を習得する。【知識及び技能】
- ② スポーツの楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。
【知識及び技能】
- ③ 他者と関わりながらスポーツに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。
【思考力・判断力・表現力】
- ④ 主体的に参加・運営することで積極的にスポーツに関わる態度を学ぶ。
【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 運動に積極的に取り組むこと
- 他者との関わりを大切にし、お互いでアドバイスをするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
- 安全に配慮して活動に取り組むこと（装飾品等を身につけない）
- 実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
- 授業の服装については学校指定のジャージ、シューズの着用を原則とする

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。 ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・ルールを理解できたか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。 ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。 ・準備片付けに積極的に取り組めたか。 ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。
主な評価方法	・実技テスト ・練習や試合の様子	・授業態度 ・課題 ・グループワーク	・出欠の状況 ・授業態度 ・服装等 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	20 時間	バドミントン バレーボール テニス	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。
2 学期	30 時間	ニュースポーツ 水泳 バスケットボール サッカー・フットサル	【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b)
3 学期	20 時間	トレーニング法 受験対策等	・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	音楽Ⅲ	単位数	3
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の諸活動をととして、技能を高め、音楽的理解を深めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽文化を尊重する態度を育てる。				
教 材	Joy of Music（教育芸術社）、愛唱歌集、音楽通論など				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	・表現および鑑賞に必要な音楽理論・音楽史を理解できたか。 ・個々の能力に応じた音楽技能を高めることができたか。	・音楽作品の特質をより深く理解し、掘り下げ、それを表現に繋げることができたか。 ・他の生徒の感じ方や考え方を尊重し共有また協働することができたか。	・自ら進んで積極的に課題に取り組むことができたか。 ・自らの課題を設定することができたか。		
主な評価方法	・実技テスト ・楽典小テスト ・授業観察	・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト	・課題提出 ・授業観察 ・授業日誌		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	楽典・ソルフェージュ① 歌唱・簡易な合唱		中間考査	15 時間	
	楽典・ソルフェージュ② 音楽史・鑑賞①		期末考査	15 時間	
2 学期	楽典・ソルフェージュ③ 音楽史・鑑賞②		中間考査	23 時間	
	楽典・ソルフェージュ④ 合唱・器楽アンサンブル・弦楽合奏		期末考査	22 時間	
3 学期	発表会計画・準備および練習		中間考査	15 時間	
	まとめの発表会		期末考査	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
2年間の音楽で積み重ねた経験を生かし、より発展的な学習を行なう。音程や音階、調の種類などの楽典や、鑑賞などをととし、音楽の構造について探究していく。また歌唱、合唱では発声を深めていき、ア・カペラ合唱等も扱う。最後に3年間のまとめの発表会を行なう。発表会の内容および練習は、選曲も含め自分たちで立案する。					

教 科	芸術				
学 年	学年	科 目	実用音楽	単位数	2
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の諸活動を通して技能を高め、音楽的理解を深めるとともに、音楽に対する豊かな感性と音楽文化を尊重する態度を育てる。個人の目標に合わせたピアノ実技の上達、初歩的なソルフェージュと読譜力を向上を目指す。				
教 材	プリントなど				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	音楽表現の技能を高めるとともに、その表現を裏付ける理論の理解が深まったか。	自分の音楽経験に基づく課題の選択が出来たか。		自ら課題を見つけ到達目標に向け計画的に取り組むことが出来たか。	
主な評価方法	・課題提出 ・実技テスト ・		・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト		・授業観察 ・課題提出 ・授業日誌
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ソルフェージュ、歌唱、楽典基礎		中間考査	10 時間	
	コード理論、実技発表		期末考査	10 時間	
2 学期	童謡唱歌・子どもの歌のコード伴奏		中間考査	15 時間	
	弾き歌い、アンサンブル		期末考査	15 時間	
3 学期	歌唱、合唱		期末考査	20 時間	
	各自の課題に合わせた実技発表				
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
授業で扱う個々の課題は個人の力量や目標を把握した上で設定する。設定された課題を実技発表会まで各自で計画的に取り組む。継続的な取り組みが必要である。 ソルフェージュ、歌唱、合唱等は一斉授業で行なう。					

教 科	芸術				
学 年	3	科 目	美術Ⅲ	単位数	3
担当者	担当 芸術科教諭 藤原 清華				
達成目標	美術の学習を通して造形的な見方・考え方を養うとともに、美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。				
教 材	教科書・スケッチブック・絵画用具用材・各種材料等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか		美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか	
主な評価方法	・練習課題 ・ワークシート ・小テスト		・作品の出来栄え ・発表、鑑賞		・振り返りシート ・授業態度 ・作品の提出状況
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	【絵画・彫刻】作家研究		中間考査 なし	15 時間	
	【メディア】コマ撮りアニメーション 【工芸】銅板加工		期末考査 なし	15 時間	
2 学期	【絵画】デッサン（鉛筆・木炭選択） 【彫刻】頭像		中間考査 なし	23 時間	
	【絵画】屋外スケッチ		期末考査 なし	22 時間	
3 学期	【選択】卒業制作		中間考査 なし	15 時間	
	【鑑賞】アートゲーム		期末考査 なし	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
アートとは「自分だけのものの見方」で世界を見つめ、「自分なりの答え」を生み出し、それを作品として表現することです。ただ作り方を学ぶのではなく「自分だけのものの見方」を試す練習、そして「自分なりの答え」を「作品」として表現する時間だと考えてください。 制作物については、丁寧に作ったか・工夫されているかを重視します。（工夫とは…自分で調べる・人に聞く・何度も試す・面白いアイデアを考えるなど）					

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	実用美術	単位数	3
担当者	美術科教諭				
達成目標	工芸・デザイン・絵画等の幅広い創造的な諸活動を通して美的体験を豊かにし、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術文化についての理解を深め、個性豊かな表現力と鑑賞力を身につける。				
教 材	絵画・工芸用具用材・各種材料等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか。またそれを技術として習得できたか。	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか		美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか。	
主な評価方法	・ 作品	・ 作品 ・ 発表、鑑賞シート		・ 振り返りノート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	ガイダンス・計画を立てる デッサン、平面構成など		中間考査 なし	10 時間	
	デッサン、平面構成など		期末考査 なし	10 時間	
2 学期	自己PRできる作品づくり		中間考査 なし	15 時間	
	ポートフォリオ（作品集）作成 色彩検定問題演習など		期末考査 なし	15 時間	
3 学期	[鑑賞]アートゲーム		中間考査 なし	10 時間	
	自由制作		期末考査 なし	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
この講座では、先生から「次はこれを作りましょう」といった課題は与えられません。取り組む課題は自分自身で決めます。やってみたいこと、もしくは進路のために身につけなければならないことは何かを考え、1人1人が個別に計画を立てて制作に取り組んでいきます。（何をしたら良いか分からない人は、先生と一緒に考えましょう） この授業で、どれだけの知識、技術、表現力を身につけられるかは皆さん次第です。充実した1年になるよう、一緒にがんばりましょう。					

教 科	芸術				
学 年	3 学年	科 目	書道Ⅲ	単位数	3
担当者	書道担当教諭				
達成目標	書道の創造的な表現活動を通して、生涯に亘り書を愛好する心情を育て、生活の中で書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。個性豊かに創造する書の技術能力と感性を高める。				
教 材	教科書・プリント・書道用具用材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	教科書に沿った書の古典学習等を通じて基礎知識を身につけること。用具・用材の特徴を理解し、古典臨書学習を中心に学習しながら基本的な技能を身に付けること。	作品制作を通じ書道理論を学習。古典や現代的表現等、多種多様な選択肢の中から自分らしい書を探してもらうこと。それらを通じて自己表現を確立。		創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	
主な評価方法	・練習課題 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート ・発表		・自己評価プリント ・授業態度	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	日本における書道史（基礎）・書道の意義について		中間考査	15 時間	
	漢字の書の学習（楷書・行書）臨書を中心に		期末考査	15 時間	
2 学期	漢字の書の学習（篆書）臨書を中心に		中間考査	23 時間	
	姓名印の制作		期末考査	22 時間	
3 学期	仮名の書の学習（臨書）		中間考査	15 時間	
	漢字仮名交じりの書の創作		期末考査	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
単元ごとに提示された作品を仕上げ提出する（指定された期限までに必ず提出できること）。作品完成に至るまでの工夫や、技能的な向上、研究する姿勢も含め総合的に評価する。技術習得ばかりでなく、鑑賞力・着眼点・豊かな発想なども大切にする。自発的な準備や片付けの協力、及び用具等の管理は自分で責任持ってきちんとしていくこと。					

教 科	英語				
学 年	3学年	科 目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4
担当者	学年担当 科教論				
達成目標	読む、書く、聞く、話すの4技能を向上させ、大学入試に対応できる英語力を育成する。				
教 材	WORLD TREK English Communication Ⅲ システム英単語 Focus on Listening Pre-Standard				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	テキストの内容を文法・語法に則り正しく理解できたか。	テキストの内容を踏まえ、世界の状況を理解し、自分の考えを表現することができたか。		グループ学習にも積極的に参加し、意見を共有し合い、問題解決能力を向上させることができた	
主な評価方法	・定期考査 (30%) ・単語テスト (10%) ・リスニングテスト (10%)	・テキストの内容を深化させ自分の考えを表現できる (30%定期考査または単元テスト)		・グループ内やクラスで意見発表する(パフォーマンステスト20%)	
進行計画 (学習の内容)				配当時間	
1 学期	Reading Focus ①～④		中間考査	20 時間	
	Reading Focus ⑤～⑦、Lesson 1		期末考査	20 時間	
2 学期	Lesson 2、3		中間考査	30 時間	
	Lesson 4、5		期末考査	30 時間	
3 学期	Lesson 6、7		中間考査	20 時間	
	Lesson 7、8		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
各自予習の上授業に臨むこと。ワークブックは授業のまとめとして各自とり組む。教科書の他に、Listeningや速読の練習も行う。システム英単語から単語テストを実施する。					

教 科	英語				
学 年	3学年	科 目	英語表現	単位数	2
担当者	学年担当 科教諭				
達成目標	文法・語法の能力を用い、自分の意見を表現できるようにする。				
教 材	BIG DIPPER English Expression II Bright Stage 英文法・語法問題				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	テキストの内容を文法・語法に則り正しく理解できたか。	テキストの内容を踏まえ、世界の状況を理解し、自分の考えを表現することができたか。		グループ学習にも積極的に参加し、意見を共有し合い、問題解決能力を向上させることができたか。	
主な評価方法	・定期考査（40%） ・暗唱例文小テスト（10%）	・テキストの内容を深化させ自分の考えを表現できる（30%定期考査または単元テスト）		・グループ内やクラスで意見発表する（パフォーマンステスト20%）	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	Lesson 8、 9		中間考査	10 時間	
	Lesson 10、 11		期末考査	10 時間	
2 学期	Lesson 12、 13、 14		中間考査	15 時間	
	Lesson 15、 16、 17		期末考査	15 時間	
3 学期	Lesson 18、 19、 20		中間考査	10 時間	
	Lesson 20、 21、 22		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
教科書BIG DIPPERⅡは授業にて使用する。ワークブックは授業のまとめとして各自取り組む。予習をして授業に臨むこと。英文法・語法の暗唱例文小テストを行う。					

教 科	英語				
学 年	3学年	科 目	英語会話	単位数	2
担当者	学年担当 科教諭				
達成目標	英語でコミュニケーションできる力を身につける。				
教 材	ATLANTIS English Conversation, 準拠ワークブック				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	知識・技能 英単語、文法、語法などの英文を読むためのスキルを身につけることができたか	思考・判断・表現 課題に対して自分で考え適切な判断をしているか		主体的に学習に取り組む態度 出席状況は良いか、課題への取り組みは良いか、学習に取り組む姿勢は意欲	
主な評価方法	・授業観察 ・テスト	・授業観察 ・インタビューテスト		・授業観察 ・グループペア活動	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	Lesson 1、2		中間考査	10 時間	
	Lesson 3、4		期末考査	10 時間	
2 学期	Lesson 5、6、7(前半)		中間考査	15 時間	
	Lesson 7(後半)、9、10		期末考査	15 時間	
3 学期	Lesson 11		中間考査	10 時間	
	Lesson 12		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・積極的に英語で話すことを大切にする。					

教 科	英語				
学 年	3学年	科 目	英語特論	単位数	3
担当者	学年担当 科教諭				
達成目標	さまざまな分野の英語長文の読解を中心に、英語の総合力を伸ばす				
教 材	Aim High Vol.1 Bright Stage 英文法・語法問題 Training Book				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	知識・技能 英単語、文法、語法などの英文を読むためのスキルを身につけることができたか	思考・判断・表現 課題に対して自分で考え適切な判断をしているか		主体的に学習に取り組む態度 出席状況は良いか、課題への取り組みは良いか、学習に取り組む姿勢は意欲的か	
主な評価方法	・ 定期テスト ・ ペアワーク		・ 発表 ・ グループ活動		・ 発問への応答
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	Lesson 1~3		中間考査	15 時間	
	Lesson 4~6		期末考査	15 時間	
2 学期	Lesson 7~10		中間考査	23 時間	
	Lesson 11~14		期末考査	22 時間	
3 学期	Lesson 15~17		中間考査	15 時間	
	Lesson 18~20		期末考査	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
Aim HighとBright Stageは交互に使用する。予習を前提として授業を進める。授業では問題解答以外にも音読を実施する。定期考査以外にも音読テストを行う。家庭でも音読練習をすること。授業時には辞書を持参すること。					

教 科	家庭科				
学 年	3学年	科 目	子どもの発達と保育	単位数	4
担当者	学年担当 家庭科教諭				
達成目標	実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う保育者として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。				
教 材	教科書「子どもの発達と保育 新訂版」（実教出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
主な評価方法	・小テスト ・学習プリントの記述内容	・小テスト ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の行動観察 ・振り返りシートによる自己評価や相互評価の様子及び記述内容		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	発達と乳幼児期の意義 発達と保育環境		中間考査	20 時間	
	子供の発育 子供の精神発達		期末考査	20 時間	
2 学期	人間関係の発達、生活と養護 子供の遊び、生活習慣の形成		中間考査	30 時間	
	保育の意義と重要性 家庭保育と集団保育、保育実習		期末考査	30 時間	
3 学期	保育の方法 子供の福祉		中間考査	20 時間	
	子育て支援		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・授業への遅刻・欠席がないこと。 ・自分の学習目的や学習目標を持って意欲的に取り組むこと。 ・レポートなどの提出物は期限を厳守すること。 ・保育園実習等への参加は事前学習に努め、積極的に取り組むこと。 ・課題解決型学習及びプレゼンテーションを実施する。					

教 科	家庭科				
学 年	3 学年	科 目	服飾文化	単位数	4
担当者	学年担当 家庭科教諭				
達成目標	被服の基本型と文化、服飾の変遷や日本の服飾文化、着装などに関する知識を学び、服飾文化の伝承と創造する力を豊かにする。また、被服製作における基本的・専門的知識と技術を身につける。				
教 材	教科書「服飾文化」(教育図書)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	衣服の構成・文化について理解し、基礎的技能を身付けることができる。	服飾文化や衣服制作に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、衣服の構成に関心を持ち、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
主な評価方法	・作品製作 ・ワークシート ・小テスト	・作品製作 ・調べ学習 ・プレゼンテーション		・作品製作 ・プレゼンテーション	
進行計画 (学習の内容)				配当時間	
1 学期	・製作の基本(小物の製作) ・下衣の製作 ・和裁の基礎		中間考査	20 時間	
			期末考査	20 時間	
2 学期	・日本の服飾文化 ・和裁の作品製作		中間考査	30 時間	
			期末考査	30 時間	
3 学期	・洋裁の基礎 (立体構成) ・上衣の製作		中間考査	20 時間	
			期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
◇学習方法					
・作品製作実習の他、授業内で作品制作や服飾文化に関する小テストを実施					
・調べ学習を行い、プレゼンテーションをする。					
◇作品製作について					
・製作実習について作品の持ち帰り製作はしないこと。					
・授業時間内にできるように授業に集中すること。					
・丁寧にきれいに作ることに努力を惜しまないこと。					
・作品やワークシート等の提出物の提出期限を守ること。					
◇持ち物					
・各自の裁縫セット					
・作品の材料 (布、糸、接着芯等)・・・授業で指示します					

教 科	家庭科				
学 年	3学年	科 目	フードデザイン	単位数	3
担当者	学年担当 家庭科教諭				
達成目標	実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上の実現に必要な資質・能力を育成することを目指す。				
教 材	「フードデザイン cooking & arrangement」(教育図書)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上に向けて合理的かつ創造的に解決する力を養う。		食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
主な評価方法	・小テスト ・実技テスト ・学習プリントの記述内容	・小テスト ・実技テスト ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察		・授業での行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容	
進行計画 (学習の内容)				配当時間	
1 学期	食を取り巻く現状 栄養素の働き		中間考査	15 時間	
	健康に必要な栄養素 食品の特徴 1		期末考査	15 時間	
2 学期	食品の特徴 2 調理と献立 1 実習		中間考査	23 時間	
	食品の特徴 3 調理と献立 2 実習		期末考査	22 時間	
3 学期	様式別の献立と調理 1 食事作法 1 実習		中間考査	15 時間	
	様式別の献立と調理 2 食事作法 2 実習		期末考査	15 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
1. 調理実習については事前に次の項目を確認する。 ① 身体を清潔にする(爪は短くし、手洗い・手指消毒を行う)。 ② 身支度を整える(持ち物・エプロン・三角巾・マスク・手拭きタオル) ③ 作業は衛生面に留意し、安全に行うことを第一に考える。 ④ 食品を大切に扱い無駄にしないこと。 2. 提出物は、提出期限を守る。					

科 目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	—				
補助教材等	未来を拓く探究シリーズ 探究ナビ（ベネッセ）、本校作成各種プリント				

1 学習の到達目標

- 1、教科横断的な学習を通じて、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解できるようにする。…【知識及び技能】
- 2、地域や国際社会、実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析して思考し、まとめ・表現できるようにする。…【思考力・判断力・表現力等】
- 3、探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域社会を支え、未来を創造しようとする態度を育てる。…【学びに向かう力、人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教材は探究学習のテキスト「探究ナビ」（ベネッセ）を主に使用しますが、適宜、本校作成のプリントや ICT 教材なども使用します。学習する具体的な内容や方法は授業ごとに伝えます。

○内容や進度に応じて、学年全体・クラス・グループ・講座などの単位で活動します。

○自分の興味・関心、地域の課題、自分の進路にかかわることをテーマにして探究学習を進めます。学習の成果を、就職試験や入学試験に活かすことができます。また、自分の生き方や働き方に対する考えを深めることができます。

○調査のために校外に出かけることがあります。地域の人たちと交流することもあります。放課後や長期休業などを利用する時もあります。主体性やコミュニケーション力が求められます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 ・探究の意義や価値を理解している。 ・地域社会の現状と課題に対する理解が深まり、問題意識が高まっている。	自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析し、思考して解決策を探り、まとめ・表現している。	・探究活動に主体的・協働的に取り組んでいる。 ・自分らしい自己の在り方、生き方を考え、自己実現を図ろうとしている。 ・異なる多様な意見や他者の考えを受け入れ、他者を尊重する価値観が身に付いている。 ・地域社会を支え、未来を創造しようとする態度が身に付いている。
主な評価方法	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・学習態度や課題の取り組み状況による評価 ・生徒の自己評価や生徒間での相互評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 月 ～ 10 月	キャリア 探究	探究ナビ 本校作成教材	20	1～2年で学んだ探究の手法を生かし、自分の進路に関する分野やより内容を深めたいと考えるテーマから、1人1つ問いを立てて研究を行い、最終的にクラスや学年等での発表を行う。 調査方法が自分の探究テーマに対して妥当なものであるか精査しながら探究活動を進めるとともに、類似の探究テーマを設定している生徒と切磋する機会も設ける。発表の方法についても学び、どのような発表方法であれば自分の探究内容が他者に効果的に伝えることができるかについても講演を通し各自で研究する。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点で評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
11 月 ～ 1 月	研究論文 作成	探究ナビ 本校作成教材	10	研究成果についての論文作成を通じて、今までの探究のプロセスを俯瞰的に見直すとともに、論文形式でのまとめ方。表現の仕方を学ぶ。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点で評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
2 月	論文発表 振り返り	探究ナビ 本校作成教材	5	3年間の探究活動の振り返りを行う。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点で評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。